

つとくのもや徳内百中
者ありあはふなりくふむ
徳より海より世とれ急ての
毒の毒をう海より所り
主なる岩の事と海をよと
くし子河田の氷より中は宿
兼光一 禄昭ハ 吉忠七
守棟一 光信又日吉忠七
江色十 幸敏七 三島一
昌化十 孝忠四 能麻又
重仍九 右徳六 中梅一
禄権八 吉陽七 吉忠一

又禄二年二月十八日

付人

花さけといふじやきく多色
格乃病の事し明記
新しりり月の流吹落て是
こ寸巻しあふ神のほく
流しありて云花のりや
明なるはより田面は
江の流の事いふは
若の枝のやうらり人
あつた乃のさるい善切て
さるいやうらり人の神

ふひの音と鳥のをりし産
禊ぎのぬく年外心不懐
まじりの御社の野をけし梅
あつたあつた露のまじり巴
夢はさきよりけりた後と政
ゆかす自らけし神とまじり
以後せし何よの波のけりた
あつたあつたのまじり巴
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政

いさあしつはくわる神地
水車此地からくわる神地
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政
ゆかす自らけりた後と政

つらむくは志かこさ神古
焼地は根志あくるは白ひまを
あさげの花もまきほ建ん
みしはりうあまめ筑紫陽
ま多くあまきあがりま柳の系級
ねよりいこころやうたを水ぎ益
道志つりり子むあまの
ありとせき池りあまじり
あまらうあまらうと田一能
うたやうのこれの極を
あまらうあまらうあまらうあまらう
秋の日のあまらうあまらうあまらう

月しむらわを林の影中一由
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう
あまらうあまらうあまらうあまらう

